

令和 7 年度我孫子市自殺対策協議会 会議概要

(1) 会議の名称	令和7年度我孫子市自殺対策協議会							
(2) 開催日時	令和7年8月8日（金） 午前10時から午前11時まで							
(3) 開催場所	市役所分館 大会議室							
(4) 出席又は欠席した委員その他会議に出席した者の氏名 (傍聴人を除く) 出：出席 欠：欠席	委 員（市職員以外）							
	出	冨下 成子	出	池森 紀夫	欠	竹下 章雄	欠	福島 慎太郎
	欠	渡邊 三枝子	出	鈴木 幸子	出	玉村 公樹	欠	柳瀬 玲子
	出	太田 由利	出	新宮 昌志	出	丸山 陽大		
	事務局出席者							
	社会福祉課 （小池課長、落合主幹、山口係長、高橋） 健康づくり支援課（鈴木係長）							
(5) 議題	(1) 我孫子市の自殺統計について (2) 我孫子市自殺対策計画について (3) 今後の自殺対策について (4) 自殺対策啓発物リーフレットについて (5) その他							
(6) 公開・非公開の別	公開							
(7) 傍聴人の数 (会議を公開した場合)	傍聴人の数	0人						
(8) 会議の内容（概要）								
発言者	内 容							
○社会福祉課 課長挨拶								
○今年度より委員が改選されたため委員自己紹介								

議題 1 我孫子市の自殺統計について

養下会長	それでは、議題に入ります。 議題（１）我孫子市の自殺統計について、事務局より説明をお願いします。
事務局	まず初めに、自殺対策の現状についてご説明させていただきます。 自殺につきましては、主要先進７か国の中で、日本が一番高く、自殺者数の累計は「毎年２万人」を超えるなど、非常事態と言える状況にあります。 我孫子市では、自殺対策を総合的、かつ効率的に推進するために、平成２２年に自殺予防対策に関わる関係機関、及び団体等で構成する「我孫子市自殺対策協議会」を設置し、我孫子市の自殺対策に取り組み始めました。 また、平成２８年には「自殺対策基本法」が改正され、「自殺対策が“生きることの包括的な支援”」と位置づけられるとともに、自殺を防ぐための計画策定が、義務付けられました。 我孫子市では、平成３１年度に「我孫子市いのちを支え合う自殺対策計画」をスタートさせ、令和６年度より第２期をスタートさせています。 自殺の原因は、健康問題や家庭問題、生活困窮など、様々な社会的要因や病気等が複合していることが知られています。 また、その多くが、追い込まれた末の死であり、自殺は個人の問題だけではなく、その多くが防ぐことのできる社会的な問題と考えられています。 誰もが、自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指し、家庭・地域・ＮＰＯなど市民団体・学校・職場・専門機関等、様々な分野の人々や組織が連携し、生きることの包括的な支援を推進していくことが必要と考えています。 それでは、自殺の現状を説明させていただきますので、「資料３－１の 令和６年 地域における自殺の基礎資料」の１ページ目をご覧ください。 お配りしました資料のデータは、厚生労働省の「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」から抜粋したものです。 令和６年の全国自殺者数は２０，１１７人で、前年から１，５４０人減少しました。うち、千葉県自殺者数は９２６人で、前年より７２人減少しています。 我孫子市の自殺者数は２７人で、前年より１１人増加しています。 近隣市では、松戸市が４人、流山市が７人の増加、野田市が５人、柏市が２６人の減少となっています。 人口１０万人に対する自殺者数を示す自殺死亡率につきましては、全国で１６．１１、千葉県は１４．６７となっています。 我孫子市は２０．５７で、前年より増加し、自殺死亡率において全国、千葉県より高くなっています。 「令和６年の自殺者数の内訳」では、男性は中高年の方が多く１７名、女性は２０代と５０代が多く１０名で、主な理由は健康問題と合わせて家庭問題と経済問題で自殺に追い込まれています。 ２ページの「地域の自殺の基礎資料」をご覧ください。 こちらは、我孫子市の平成２７年から令和６年までの１０年間の自殺者数や自殺死亡率等の累計データをまとめたものです。 我孫子市の自殺者数の累計データは、１０年間で１９９人、男女別では男性が１２９人、女性が７０人となっており、男性が６５パーセントを占めています。 年代別では、５０歳代が４１人と最も多く、その次に６０歳代が２９人となっています。 職業別では、無職者が１２５人と最も多く、その中でも年金・雇用保険等生活者が７１人となっています。 ３ページをご覧ください。 原因・動機別では、健康問題が１１３人と、全体の４２％以上を占めています。 続いて、５ページをご覧ください。 ５ページ上のグラフは、我孫子市の平成２７年から令和６年まで１０年間の男女別の自殺者数の推移です。 このグラフの通り、我孫子市では平成２７年から平成３１年にかけて男女合計の自殺者数は減少傾向にありましたが、令和２年、令和３年と増加に転じ、令和４年、令和５年と減少傾向となっています。しかし、令和６年は再び増加し、自殺者数は過去１０年間で最多となりました。 次に下のグラフは、１０年間の累計した男女別年代別の自殺者数です。 各年代を男女別にみると、男性では５０歳代が一番多く３０人、６０歳代の２０人となっています。 女性は、７０歳代が一番多く１２人、その次に４０歳代・５０歳代の１１人となっています。 次に６ページをご覧ください。 こちらは、上のグラフが職業別自殺者数の累計です。 先ほども申し上げましたが、職業別で一番多いのは、無職者が最も多く、その中でも５４％が年金・雇用保険等生活者となっています。また、全体の約６６％が無職の方となっています。 下のグラフは、原因別自殺者数の累計です。 原因別では、３ページでも申し上げた通り、圧倒的に健康問題が多くなっています。健康問題の多くは、うつ病の方が多いようです。 次に７ページをご覧ください。 こちらは、上が月別の自殺者数の累計、下は曜日別の自殺者数の累計を示したグラフです。 上の月別自殺者数をご覧くださいと、５月が一番多く２４人、次に多いのが１１月の１９人となっています。また、曜日別では、月曜日が最も多く、次に金曜日となっています。

	資料 3-2 の「我孫子市における過去 5 年間の自殺者数項目別推移」の 1 ページ目をご覧ください。 こちらは、この度の我孫子市における自殺者数の増加を受け、増加原因の分析の参考とするため作成したもので、主な項目について推移をグラフにしています。 1 ページには、年代別と男女別のグラフを掲載しています。 年代別では、例年と比較して令和 6 年は 20 代と 50 代が増加していることがうかがえます。 男女別では大きな変化は見受けられません。 2 ページをご覧ください。 職業別では、令和 6 年は男性の無職者の割合が増加していることがわかります。原因別では、男性の健康問題が増加しています。 3 ページは未遂歴の推移です。 基本的に男性は未遂歴の無い方の割合が多く、女性は未遂歴が有る方の割合が多い傾向にあります。令和 6 年は男性の自殺者数が増加していることから、未遂歴の無い方の割合が多いという傾向がより顕著にあらわれていることが分かります。以上のことから、我孫子市においては就職や家庭、経済や生活問題などライフステージの変化が大きい 20 代と 50 代において自殺者数が増加しており、特に男性においては未遂歴の無い方が多いことから、自殺企図を未然に防ぐため、早期のうちに必要な支援につなげる必要性がこれまでより強く求められていると考えられます。 資料 4 の「令和 6 年原因・動機別自殺者数内訳」の 1 ページ目をご覧ください。 こちらは警察庁が公表している全国的な資料をグラフ化したものです。 1 ページ上のグラフは、原因・動機別の自殺者数となっており、自殺の原因・動機のうち約 44% が健康問題となっています。 2 ページ目の上のグラフをご覧ください。 健康問題のうち、一番多いのはうつ病による病気の悩み・影響で 35%、二番目がその他の身体の病気による病気の悩み・影響で 23% となっています。 様々な要因からうつ病になり、自殺に追い込まれる方が多いようです。 健康問題に次いで多いのが、家庭問題と経済・生活問題となっています。 資料 7 「令和 7 年度第 1 回我孫子市自殺対策庁内連絡会議 委員からの意見」をご覧ください。 我孫子市では自殺対策関係各課の課長を委員とする自殺対策庁内連絡会議を設置しており、本協議会と同様の資料をお示しし、委員から意見をいただいています。今年度は書面開催にて会議を行い、こちらはその際に委員から寄せられた意見を取りまとめたものです。 意見のボリュームが大きいので、主なご意見についてご説明します。また、このあとの議題についての意見については、それぞれの議題の際にご紹介させていただきます。 議題 1 では、令和 6 年の我孫子市の自殺者数が大きく増加したことを受け、各所管課において思い当たる点をお聞きしました。 ①の我孫子市地域職業相談室のデータでは、地域職業相談室を介して実際に就職した方の人数は過去 5 年で増加しているという報告がありました。また、②では精神疾患は 10 歳代から 20 歳代、女性では 30 歳代までが発症しやすいことや、発達障害特性をもちながらも学生生活を終え、就職した後に職場の人間関係などでうまくいかず、二次障害を発症するという意見がありました。また、⑥「自損行為における救急出動状況について」をみると、令和 5 年から令和 6 年にかけて自損行為による救急出動件数が増加していることがわかります。他の委員からも、生活困窮から自殺に至るのではないかと意見が見られました。
養下会長	このことについて、ご意見などございますか。 なければ、議題（2）我孫子市自殺対策計画について、事務局より説明をお願いします。

議題2 我孫子市自殺対策計画について

事務局	第2次我孫子市いのちを支え合う自殺対策計画の37ページをご覧ください。 第2次の計画では、第1次計画から引き続き、生きることの包括的な支援（自殺対策）をみんなで推進し、かけがえない命を支え合うことを目的として、 ・市民一人ひとりへの周知啓発と心の健康づくり ・適切な相談と支援につなげるネットワークの構築 ・命を支える人材の養成 ・様々な対象に応じた自殺対策の展開 の4つのいのちを支えあう施策を掲げています。 また、各施策を推進するため、11の取り組みと102の個別事業を掲げています。 第1次計画と異なる点としては、令和4年10月に閣議決定された新たな自殺総合対策大綱にて示されている、コロナ禍の自殺の動向も踏まえつつ、これまでの取り組みに加え「子ども・若者の自殺対策の更なる推進・強化」「女性に対する支援の強化」「地域自殺対策の取り組み強化」「総合的な自殺対策の更なる推進・強化」を追加し、総合的な自殺対策の更なる推進・強化を掲げています。 計画書69ページから71ページをご覧ください。 こちらは第2次計画において新たに追加した取組です。国、県の方向性を踏まえ、我孫子市では既存の施策に「女性への支援」と「社会全体のつながりの推進」として「新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえた対策の推進」を追加しました。 取り組みとしては、「妊産婦への支援の充実」「配偶者等からの暴力の被害者支援の充実」「様々な困難を抱える女性への相談支援の充実」「ICT活用の推進」を追加しました。 計画書72ページをご覧ください。 こちらは、第2次計画における評価指標の一覧です。 先ほど資料配布の際にお話させていただいたとおり、評価指標の数字に誤りがあったため、報告いたします。 「①市民一人ひとりへの周知啓発と心の健康づくり」の「高齢者なんでも相談室における延べ相談件数」については、現状値が310、514件、目標値が355、000件となっていますが、正しくは現状値が31,514件、目標値が35,500件でした。また、「障害者まちかど相談室における精神障害に関する延べ相談件数」については、現状値が9,398件、目標値が11,500件となっておりますが、正しくは現状値が2,976件、目標値が4,600件でした。本日の資料として、計画書72ページの差し替えを添付していますので、お手数ですが貼付するなど差し替えのほどお願いいたします。 資料5をご覧ください。こちらは第2次計画における評価指標の実績です。 令和6年度は第2次計画が始まった年度であったため、目標値を達成している項目は指標①「高齢者なんでも相談室における延べ相談件数」、⑦「小中学校の道徳の授業等における自他の命を大切にする教育の実施校率」の100%の2つとなっています。ここでは、令和5年度より数字の下がった二つの項目についてご説明します。 まず指標② 適切な相談と支援につなげるネットワークの構築の多関係機関との連携強化を図った会議・研修会の開催数です。こちらは目標値が20回となっていますが、定例的な開催ではなく必要に応じての開催となるため令和6年度は9回の開催となりました。多関係機関との連携強化を図るため、開催回数を見直していくことを検討します。 続いて指標⑤ 様々な対象に応じた自殺対策の展開（生活困窮者への支援）の生活困窮者自立支援制度に伴う支援プラン実施件数です。支援プランは住居確保給付金など、生活保護になる前の支援策で生活が立て直せる状態の方について作成しています。令和6年度にあったご相談のうち、困窮状態が深刻であり、生活保護制度の適用となる方が例年よりも多かったことが支援プラン減少の原因です。 資料7の2ページ、議題2の欄をご覧ください。 庁内連絡会議の意見としては、指標の乖離が大きい項目は指標を見直しても良いのではという意見や、設定した指標通りで変化をみるべきといった意見がありました。現状は設定した指標のままとし、今後の経過を見つつ検討していきたいと思っています。
養下会長	このことについて、ご意見などございますでしょうか。
鈴木委員	資料5の評価指標⑦ 「小中学校の道徳の授業等における、自他の命を大切にする教育」のこのところ、小中学校何年生を対象にしているのでしょうか。
事務局	確認してご報告させていただきます。 （※確認したところ、小学1年生から中学3年生までの全学年が対象とのことです。）
養下会長	他にご意見はありますか。 なければ、議題（3）今後の自殺対策について、事務局より説明をお願いします。

議題3 今後の自殺対策について

事務局	議題（１）でご説明したとおり、令和6年の我孫子市の自殺者数は過去10年間で最も多い結果となりました。そのため、市では自殺対策計画のサブタイトルにもあるとおり「みんながゲートキーパーのまち我孫子」を目指し、今後も様々な対象にゲートキーパー研修を行い、悩んでいる人を周囲の人で支え合えるような自殺対策を行っていきたいと考えています。 資料6をご覧ください。 こちらは社会福祉課で昨年度までに開催したゲートキーパー研修の一覧です。第1次自殺対策計画を開始した令和元年度からは、庁内の全職員を対象とした研修と新人職員の研修を年1回ずつ行い、その他に外部の関係機関の方を対象としたゲートキーパー研修を開催するという形をとっています。 これまでは、民生委員や人権擁護委員など悩みを抱える方と接する機会の多い方を対象として行ってきましたが、より多くの方にゲートキーパーの役割を知っていただくため、今年度は対象を限定せず広く一般市民も対象にしたゲートキーパー研修を行いたいと考えています。 現在は、ゲートキーパー研修の開催と、自殺対策啓発物の配布の二点を主な自殺対策として行っており、9月の自殺対策予防週間、3月の自殺対策強化月間にあわせて市の広報や公式SNSにて啓発記事を掲載しています。今後、より効果的な自殺対策を検討していきたいと考えています。 資料7の3をご覧ください。 ②や⑥では、市のHPの更なる活用や、令和6年に20代の自殺者数が増加したことから若者に対しての発信方法についてリーフレットだけではなく動画やSNSで周知するののも一つの方法であるという意見もありました。 ⑨では、ゲートキーパーの啓発リーフレットをハローワークなど就労にかかる機関に配布し、離職をきっかけに生活困窮に陥っている方へのアプローチが必要であるという意見がありました。 現在、我孫子市で運用しているSNSとしては、YouTubeチャンネル、X（旧Twitter）、フェイスブック、LINEがありますが、これらの市公式SNSで印象に残るような啓発方法やゲートキーパー研修の対象など、ご意見がありましたらお聞かせいただけたらと思います。
養下会長	このことについて、ご意見はありますでしょうか。
丸山委員	SNSの発信については今年、市制施行55周年市民文化スポーツ栄誉章受賞者の漫才コンビ「ナイツ」の塙さんや、サッカー日本代表の中村敬斗さんなど、影響力のある方にリツイートしていただくことで、良い啓発に繋がると思います。
事務局	塙さんや中村さんへの依頼について、担当課の秘書広報課と協議するなど、検討したいと思います。 今年度中に実施する予定の市民を対象にしたゲートキーパー研修について、影響力や発信力のある方に講師をお願いできるよう調整したいと考えています。
養下会長	他にご意見はありますでしょうか。 なければ、議題（４）自殺対策啓発物リーフレットについて事務局より説明をお願いします。

議題 4 自殺対策啓発物リーフレットについて

事務局	今年度もポスターとリーフレット、ポケットティッシュを各施設等に配布しています。 我孫子市では令和 7 年 1 月から 6 月まで 13 人の方が自ら命を絶ちました。このまま推移しますと昨年と同程度の人数の方が亡くなるのではと懸念しています。 令和 6 年に自殺者数が増加したこと、全年代で自殺者が出ていることから、今回はできるだけ年代を絞らず、全年代を意識したデザインとしています。 我孫子市のキャラクター「うなきちさん」を全面に使って親しみやすいデザインにしています。 啓発活動を通してゲートキーパーの役割を広め、自殺を防ぐきっかけの一つとなることを目指しています。 また今回の特徴としては、QRコードをそれぞれの項目に載せており、市のホームページやYouTube、各相談機関にリンクすることができるような構成にしています。
	資料 7 の 4 ページをご覧ください。 意見としては概ね好評をいただいたかと思いますが、①の意見では、表紙の言葉が不足していて何のリーフレットか分かりづらいという意見や、④では紙媒体としては良いが、更に視覚や聴覚に訴える動画などを活用した PR が効果的ではないかという意見が寄せられています。 リーフレットの内容についてのご意見や、配布先のご意見・希望等があれば頂戴したいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。
養下会長	ただいま事務局より説明について、ご意見ご質問などありましたらお願いいたします。
鈴木委員	リーフレットにある QRコードを読み取ってみました。市の HP などに掲載されている文章の文字数が多いと思います。文字が多いと人は読まないの、もうちょっと短い言葉で表現できると良いのではないのでしょうか。
事務局	仰る通り、分かり易く、伝わる様にしないと効果が薄れてしまうと思います。例えば YouTube などの動画でも再生時間が何十分ともなると、最後まで観る方は少ないと思うので、例えばショート動画を作成するなど、気軽に見やすい工夫が必要だと思います。HP の文字数については見直しを検討します。
玉村委員	リーフレットの内容について、「良い内容＝伝わる内容」ではないと思います。人に伝わる専門技術というのは、マーケティングの分野だと思います。先ほど SNS の話もありましたが、いわゆるバズるというものには典型的なパターンがあるので、SNS マーケティングや、人に伝える商品マーケティングの手法などを取り入れてみると良いのではと感じました。
事務局	ご指摘のとおり、自殺者数の増加を受けて広報啓発の内容を見直す必要があると考えています。 マーケティングの手法を取り入れたり、市の広報を担当している秘書広報課に相談するなどして検討していきたいです。
養下会長	他にご意見はありますか。 次に議題（5）その他ということで、本日の議題全体やその他のことで、各委員からご意見をいただきたいです。

議題5 その他	
池森委員	精神科では自殺を考えている方も多く、医療の重要性を十分に認識していますが、医師からすると来院してもらえないとどうしようもないという事情はあります。 我孫子市に限らず、精神科の予約はとりづらく、早くても予約から受診まで2週間ほどかかるケースが多く、受診までの間をどう凌ぐかというところに課題があると感じています。 また、自傷行為が確認された際に、相談窓口だけではなく医療に積極的に繋げていけると良いと思いますが、実際には救急搬送された際に、医療に繋がるというケースが多いのではと思います。
丸山委員	資料では統計的に5月の自殺者数が一番多いとありますが、自殺対策強化月間が3月とされているのはどういう理由からでしょうか。 また職業相談窓口での職業斡旋件数が増えているとありますが、斡旋先は我孫子市内に限定されているのか、それとも県外や他市の職業も斡旋出来ているのか教えてください。 DV被害者から相談を受けた際、避難の希望があるが経済的に余裕がない方の場合、生活保護やシェルター（緊急一時保護施設）の案内をしています、なかには税金を受け取って生活をするのではなく、就労して生活したいと希望する方がいます。とはいえ、自宅付近で働くとか加害者に見つかってしまう恐れがあり、市外の就労先を探す中々みつからないという現状があります。こうした方の就労先がみつかりやすくなれば、相談を受け付けた際に建設的な話ができると感じています。
事務局	自殺対策強化月間については、4月からの就職や転勤、異動や転居など生活環境が大きく変動することを受け、5月に自殺者数が増えるという現状から、実際に自殺者数の増える5月ではなく3月に啓発することで、自殺対策として効果的であるとされています。 職業相談について、我孫子市では我孫子市地域職業相談室を20年ほど前から設置しており、ハローワーク松戸まで行くことが難しい方でも、ハローワークと同様の求人情報が閲覧できるようになっています。市内や近隣市に限らず、県外も含めた様々な求人情報の閲覧や、相談員による職業相談や紹介が受けられます。
太田委員	自殺対策というのは「死なないための対策」でもあると考えます。 精神的にも身体的にも健康を維持し、子どもの頃から年を取ってまで健康でいることが、結果として自殺対策に繋がっていると思っています。 各市町村において自殺対策の部署をどの課に置くのかによって、市町村の考え方が伺えると思っていますが、我孫子市は生活保護制度などを所管する社会福祉課が担当課ということなので、生活困窮者を主な対象としているということだろうと思います。 先ほど申し上げた「健康を維持する」ということを考えると、生活困窮者だけではなく、地域の方の健康と一緒に考えてくれるような保健師がいる部署が担当した方が全体としては良いのではないかと個人としては感じています。生活困窮に関する担当者の方が対応されるには難しい面があるのではないかと思います。 また、千葉県精神保健福祉センターで行っている依存症相談では、最近はその子どものゲーム依存や市販薬などの過剰摂取（オーバードーズ）に関する相談が増えています。その子どもに発達特性があって不適応を起こしている場合などは医療機関への受診が必要になる場合がありますが、受け入れ可能な医療機関が少ないという現状があり、課題だと感じています。
新宮委員	保健所としては、警察から自傷他害の恐れのある精神障害者に関する通報を受けた場合に医療機関と連携するなどして関わっています。令和6年に我孫子市の自殺者数が増えたとのことで、会議資料にもまとめてくださっていますが、原因分析についてどのように考えていますか。 また、精神疾患に関する相談の担当課は我孫子市では障害者支援課だと思いますが、例えば精神疾患と生活困窮の両方を抱える方が相談に来られた場合、一般的には社会福祉課と障害者支援課どちらが対応するのか難しい場合もあるのではと思います。我孫子市はこうした場合も他課との連携が良くできているというお話を聞いたことがありますので、今後も継続していただきたいと思います。
事務局	自殺者数の増加に関する要因分析についてですが、統計を資料にまとめただけでは判然としないため、先ほどご説明した自殺対策庁内連絡会議において各課に意見を求めています。自殺者数が増えた本質的な要因について、現状では掴めていないと感じています。そのため、本協議会においてご意見を伺いたいと思いますし、その他あらゆる方法を検討して多角的な分析を継続していく必要があると考えています。 他課との連携についてですが、我孫子市では以前から専門職を各課に配置し、連携の取りやすい体制を作ってきました。複合的な課題を抱えた方が相談に来られた場合は他課と連携して対応に当たっていますし、相談先に迷った場合は社会福祉課がまず相談を伺うという体制をとっていますので、今後も継続していきたいと思っています。
鈴木委員	湖北台団地では高齢者が増加していて、生活保護を受けている世帯も多くいらっしゃいます。 生活保護世帯の親が高齢化し、その子どもが大人になって家を出ても、その後就労せずに生活保護を受けるようなケースがあります。民生委員としては、こうした方に声掛けの訪問を心がけていますが、中々就職活動などに結びついていかないもどかしさを感じているので、市と連携していきたいと思っています。

事務局	湖北台団地は低廉な家賃であることから、所得の低い方でも入居しやすいという状況ですので、生活保護を受けける方も増えやすい傾向にあります。また、複合的な課題を抱えた方も多くいらっしゃいますが、福祉につながりにくいという現状がありますので、現在、湖北台団地を管理しているUR都市機構と市の社会福祉課、高齢者支援課、障害者支援課とで対策を協議する場を立ち上げています。 また、10月から生活困窮者等就労準備支援事業を立ち上げます。 親の年金で生活する50代、いわゆる「8050問題」や、社会との関わりに不安を抱えた引きこもりの方などに対して、日常生活能力や社会的能力の形成・向上、就労意欲の喚起等の支援を計画的に行い、自立に向けた支援の強化・充実を開始していくところです。
玉村委員	全国や近隣市では自殺者数が増加していない一方で、我孫子市の自殺者数が増加していることについて、我孫子市の地域特性に何があるのか、自殺者の関係の方に調査するなどのフィールドワークなどもできれば良いと思います。 また、丸山委員からお話のあったDV被害者の就労支援についてですが、ほっとねっとにも同様の相談があります。その場合は民間の人材派遣会社をご紹介するというも行っていますので、ご参考にしていただけたらと思います。
事務局	我孫子市の地域特性の分析について、実現可能なあらゆる手段を検討していきたいと思います。
養下会長	太田委員のお話にあったように、希死念慮のある方が受診先の医療機関をみつげづらいという現状は同様に感じています。 湖北台団地などで、ハローワークの出張相談や出張健康相談のようなことができれば良いのではと感じましたし、地域コミュニティの活性化にもつながるのではないかと思います。
養下会長	本日は大変貴重な意見をありがとうございました。 それでは、他に意見はございますでしょうか。 (意見なし)
養下会長	それでは、これを持ちまして、令和7年度第1回我孫子市自殺対策協議会を閉会いたします。
以上	